

桜咲く「千川通り 桜並木の再生」について

1. 千川通りの桜並木について

第四建設事務所管内にはおよそ 500 本の桜が植栽されている。その中でも、特例都道椎名町上石神井線（第 439 号）千川通りの桜は、その半数以上を占めている。千川通りの桜の多くは、昭和 59 年頃に住民の要望に応える形で植栽された。特に、西武池袋線の江古田駅～中村橋駅までの区間は「染井吉野」を中心とした見事な桜並木（写真－1）となっており、練馬区の花見の名所となっていると同時に、中村橋駅付近では桜祭りを実施するなど、桜に対して関心の高い地域である。



写真－1 千川通りの桜並木

2. 桜並木の再生に向けた取り組み

2. 1 千川通り 桜並木の現状と課題

千川通りの桜並木は、植栽後約 35 年が経過し、老木化や腐朽に伴い樹勢が衰退してきていることから、多くの樹木について、伐採などの処置が必要であった。しかし、代々地域住民の方々に関心が特に高く、一部の町会に桜の伐採を受け入れてもらうことができなかった。こうしたことから、これまで倒木の恐れのある桜に対して支柱を設置するなどの応急的な処置を行っていた。ここで、支柱のある桜以外の樹木の状況を明確に把握出来ておらず、また、道路の利用者からは、信号や標識等が見えないという苦情が多数寄せられ、加えて、隣接した桜同士が支障し枝折れが多いため、一日も早い桜並木の再生が必要となっていた。

2. 2 千川通り 桜並木の再生に向けた対応

2. 2. 1 地元の意向の確認

桜並木の再生にあたり、地元との信頼関係を構築することが重要であると考え、まず町会が桜の伐採を反対する理由について確認することとした。そのため、これまでの経緯の整理とともに、過去に町会と調整を行った職員や地元区に対して、聞き取りを行った。この結果、これまでは、一部の町会に対して伐採の話しかしていなかったため、現地の桜が無くなると思われていたことが同意を得られない理由と判明した。また、過去の千川通りに接続する新設された他課の道路工事で、移植だけでなく老朽化に伴う植替えの理解もあったことを把握したうえで、桜祭りの関係者は、伐採による祭りへの影響を懸念していることも確認できた。さらに、地元神社の祭事の際に、境内の桜の太枝が落下し、騒ぎになったことから、桜の老木化を心配する方もいるという話も確認できた。こうしたことから、地元に対しては危険な桜の伐採だけでなく、植替えまで含めて実施することを説明することとした。

2. 2. 2 地元の理解の促進

桜の伐採、植替えの実施や対象となる樹木について地元理解してもらうため、練馬工区管内の千川通りの桜すべての桜に対して街路樹診断を行った。診断の結果、全262本のうち、20本の樹木が不健全(C判定)と判定された。この結果を踏まえ、地元区、商店会、町会、桜祭り関係者に対して、街路樹診断の方法や手順、結果を丁寧に説明するとともに、過去に千川通りで枝折れが発生していることや、神社での枝落ちが起こったことなどを伝えた。特に、桜祭り関係者には、祭りまでの開花を目標とすることを説明して安心してもらった。一部の町会は、なかなか同意を得ることができなかったが、何度も足を運び、安全第一の重要性を粘り強く説明することで受け入れてもらうことができた。

2. 2. 3 地元の意向を踏まえた植替えの実施

桜祭りまでの開花に間に合うように、苗圃での購入に際して、流通している中で樹高が高く幹回りの大きな桜を選択するとともに、植替え時期は、2月までが適していることから、早期から交通管理者との行程調整を図り、少し遅れたが3月上旬に植替えを完了した。また、伐採後の植替の際には、土壌の入れ替えや、隣接する樹木等から十分な離隔が取れるよう植栽位置の検討を行うことにより、新しく植栽した苗木が健康に生育できるよう考慮した。十分な樹冠間隔が確保できない場合や信号等の視距に問題がある箇所は、地元の了解を得たうえで、既存の主な樹種と同じ横に枝の張る「染井吉野」ではなく、上に伸びる品種である「天の川」へ転換を図り、樹木本数を少しでも減らさない工夫を行った。さらに、桜の植替えの際は、事務所のホームページや樹木への掲示、工事看板等で広くかつ入念な事業の周知に努めた。伐採・抜根にあたっては、土日での作業が必要な箇所や想定以上の根がある箇所があり作業が難航したが、バス会社・沿道住民等関係者との詳細調整を実施したことにより、苦情も全くなく、植替えを無事に完了し、その年の4月には花を咲かせ桜祭りに間に合わせる事ができた。



写真-2 植栽した天の川

3. まとめ

関係者との連携・協力の結果、長年難航していた「千川通り桜並木の再生」について、苦情も全くなく無事完了させることが出来た。今回、過去に同意を得られなかった原因の追究や粘り強く説明することへの重要性を認識するとともに、桜祭り関係者に今年度の事業説明をした際にも喜んで頂いたことに、やりがいを感じる事が出来た。今後も、街路樹診断を継続的・計画的に行い、各樹木の状態を把握するとともに、倒木等の被害が生じる前に、適切かつ計画的に植替を実施し、安全で地元からも愛される桜並木の再生へと繋げていきたい。さらに、当事務所においては、桜以外の倒木の危険性の高い樹種についても、優先的に診断を進めていくことが重要であると感じた。



写真-3 桜祭りの様子

優先的に診断を進めていくことが重要である